

葉色の淡いほ場では 穂肥や追肥を！

長岡農業普及指導センター
稲作情報 No. 8

電 話：0258-38-2557
E-mail：ngt111440@pref.niigata.lg.jp

出穂が早まっています！

7 月 21 日の調査では、コシヒカリで走り穂が確認されました。
葉色の淡いほ場は、出穂前に追肥を終えられるよう、至急対応
してください。

【コシヒカリ定点調査ほの生育状況（7 月 21 日現在、管内 24 か所平均）】

草丈：	88 cm	（指標値比	110 % = 長い	）
茎数：	420 本/m ²	（指標値比	106 % = やや多	）
葉数：	12.8 葉	（指標値差	0.9 葉 = 早い	）
葉色：	32.7 (SPAD)	（指標値差 - 0.8	= 並	）

1 今後の施肥管理

（1）分施肥体系で 2 回目穂肥を実施した場合

分施肥体系で 2 回目の穂肥を施用した場合でも、出穂期の葉色が SPAD 値 33 を下回ると予想される場合は出穂期 3 日前までに窒素成分で 1kg/10a を目安に 3 回目穂肥を行いましょう。

（2）分施肥体系で 2 回目穂肥を**未実施**の場合

分施肥体系で 2 回目の穂肥を施用していない場合でも出穂期の葉色が SPAD 値 33 を下回ると予想される場合は出穂期 3 日前までに窒素成分で 1～2kg/10a を上限に追肥を行いましょう。

（3）全量基肥体系の場合

出穂期の葉色が SPAD 値 33 を下回ると予想される場合は、出穂期 3 日前までに窒素成分で 1～2kg/10a を上限に追肥を行いましょう。特別栽培米の場合は、化学肥料の窒素成分使用量に応じた追肥を行い後期栄養の確保に努めましょう。

2 今後の水管理

（1）飽水管理の徹底 ～田面が湿っている状態を保つ！～

出穂・開花期はイネが最も水を必要とする時期のため、飽水管理を徹底しましょう。

【飽水管理の効果】

- ◎ 根に酸素を供給して根腐れを防止するとともに、うわ根の発生を促進する
- ◎ 根が常に吸水可能にすることで、急激な葉色の低下を防ぐ
- ◎ 地温の上昇を抑える

※出穂 12 日前頃～出穂期・開花期は、稲が最も水を必要とする時期ですが、
常時湛水する必要はありません。

※かけ流し等を行わず、限りある用水を有効に使いましょう。

※中干し用に切った溝の手直しを行い、速やかなかん水と秋の排水に備えましょう。

※暑い日が続いています。早生品種でも出穂後 25 日以降を落水時期にしましょう。

3 病虫害防除

(1) 農薬の使用時期の注意

出穂期が早まっているため、農薬散布前に使用時期（出穂前日数、収穫前日数）
を必ず確認してください。

(2) いもち病

長岡地域で葉いもちの発生が確認されています。ほ場を見回り、発病を確認したら、穂いもちに進展しないよう直ちに防除を実施しましょう（コシヒカリ BL で少発生の場合は除く）。

極早生品種では 8 月中旬に収穫時期を迎えます。防除はドリフトに注意しましょう。

収穫時期が近づいています。農薬の使用時期（使用前日数）に注意しましょう。

(3) 紋枯病

前年度多発生したほ場や茎数が過剰なほ場では多発生しやすいため、発生状況を確認して防除を実施しましょう。

(4) 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類が平年より多く確認されています。出穂期を確認し、防除適期に合わせた薬剤防除を確実に実施しましょう。また、薬剤防除前に草刈りを行うことで防除効果を高めることができます。水田内外の雑草除去を徹底しましょう。

- ・ 農作業事故に注意しましょう。特に草刈り作業は、周囲に気を配ってください。
- ・ こまめな水分補給や休憩など、熱中症防止対策を徹底しましょう。